

- 財団合併と新理事長就任のご報告
- 旧損保ジャパン記念財団と旧日本興亜福祉財団の取組を引き継ぎます！
- 2015年度の募集（公募）
- 2014年度NPO基盤強化資金助成贈呈式を開催
- 2014年度海外助成贈呈式を開催
- 第16回損保ジャパン記念財団賞贈呈式を開催

発行者 公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン日本興亜本社ビル TEL：03-3349-9570 FAX：03-5322-5257

http://www.sjnkwf.org/ Eメール：office@sjnkwf.org

2015

vol. 1

合併と新理事長就任のご報告

公益財団法人損保ジャパン記念財団と公益財団法人日本興亜福祉財団は2015年4月に合併し、公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団になりました。

また、6月に佐藤理事長が理事長を退任し、二宮理事長が新しく理事長に就任しました。

両財団から引き継いだ様々な公益目的事業を通じ社会福祉の向上に資する取組を行って参りますので、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

財団所在地：東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン日本興亜本社ビル



二宮理事長

旧損保ジャパン記念財団と旧日本興亜福祉財団の取組を引き継ぎます！

日本興亜福祉財団は、1991年の設立以来、高齢者福祉の増進に寄与することを目的とした事業を展開してきました。

我が国はどの国も経験したことの無いスピードで高齢化が進んでいます。現在、65歳以上の高齢者の割合は人口の4人にひとりです。2035年には3人にひとりになると予想されており、老後の不安への対応は切実な社会問題です。また、高齢者の4人に1人が認知症患者およびその予備軍とも言われています。

今後ますます高齢者福祉の充実が求められている中で、損保ジャパン日本興亜福祉財団では、日本興亜福祉財団が行ってきた事業を継続し、高齢者福祉の増進に取り組んで参ります。



<旭川荘厚生専門学校：介護実習風景>



<認知症の人と家族の交流会・研修会>

【在宅で高齢者を介護する家族の交流・研修への支援】

認知症等的高齢者を抱え、在宅での介護のために日々緊張を強いられながら闘っている家族の交流と、一時の安らぎの場を提供しながら、介護技術等のレベルアップを図るための交流・研修会に対して助成を行っています。

2014年度は「公益社団法人認知症の人と家族の会」とタイアップし、同会の28支部、902名の交流・研修会に助成を行いました。1991年から24年間で、約1万5千人の方が参加しています。2015年度も同会と連携して同様の交流・研修会を支援します。



<各支部で企画した研修会で悩みを分かち合い、リフレッシュします。>



<奨学生が在籍する「旭川荘厚生専門学校」の介護実習風景>

【介護福祉士を目指す学生への奨学金の支給】

介護福祉士人材の育成を図ることを目的として介護福祉士を目指す学生に奨学金を支給しています。福祉の現場は離職率が高く、常に優秀でやる気のある人材が不足している状況です。

財団では毎年、2年制の専修学校に介護福祉士の資格取得を目指して入学する1年生10名に奨学金（月額3万円、返済不要）の支給を決定し、卒業までの2年間、支援しています。

今年度も1年生10名、2年生10名、合計20名の方に奨学金を支給し、応援しています。

1992年の制度開始以来23年間で、238名の方に奨学金を支給し、多くの方が福祉現場で介護福祉の専門家として活躍しています。

【ジェロントロジー研究会】

ジェロントロジー（老年学）研究の一層の充実をはかるため、日本興亜福祉財団では財団内に「社会老年学研究所」において独自の研究を行ってきました。合併後の損保ジャパン日本興亜福祉財団では「ジェロントロジー研究会」として研究を引継ぎ、引き続き高齢者や高齢社会をめぐる諸問題の解決に向けた研究を進めて参ります。

研究の成果は財団叢書として発行し全国図書館や関係者に贈呈する他、講演会、シンポジウム等でも発表して参ります。

【ジェロントロジー研究助成】

ジェロントロジー（老年学）、特に社会科学分野に関する独創的・先進的な研究に対し助成を行っています。超高齢社会の到来という背景を踏まえ、高齢者や高齢社会をめぐる諸問題を明確にして、この解決に向けての基盤となる研究が対象です。

募集は隔年で実施しており、2014年度は公募により応募された研究の中から18件の助成（総額800万円）を決定しました。



また、助成した研究の成果を冊子に取り纏めて関係研究機関や全国の図書館に寄贈しています。すでに2012年度に採用した研究成果を取り纏めた「平成24年度ジェロントロジー研究報告No. 11」まで11冊の研究報告冊子を発行しています。希望の方は財団事務局までご連絡ください。

「平成24年度ジェロントロジー研究報告No. 11」に収録の研究

No	対象者 ※共同研究の場合は代表者	所属	研究テーマ	形態
①	森 明子	認知症介護研究・研修大府センター	認知症高齢者と介護スタッフのコミュニケーションに役立つ写真集の開発に関する研究	個人
②	和田 裕一	東北大学大学院 情報科学研究科	高齢者のパーソナルコンピュータの利活用が生活の質(QOL)向上に及ぼす影響	個人
③	小野 ミツ	九州大学大学院 医学研究院	高齢者虐待防止にかかわる保健福祉職員のメンタルヘルス支援プログラムの検討	共同
④	山田 陽介	国立健康・栄養研究所 基礎栄養研究部	日記と活動量計の配布による自己管理型生活改善介入プログラムが老年期うつ状態に与える影響	共同
⑤	増井 幸恵	東京都健康長寿医療 センター研究所	超高齢者の精神的健康の維持に寄与する対人関係のあり方に関する研究－老年的超越の発達を指標として－	共同
⑥	松本 望	日本社会事業大学 大学院 社会福祉学研究科	認知症グループホームにおける「虐待リスク評価尺度」の開発	個人
⑦	田中 元基	淑徳大学大学院 総合福祉研究科	認知症高齢者が認識する場所の生成・変容プロセスの相互行為分析	共同
⑧	永田 千鶴	山口大学大学院 医学系研究科	認知症高齢者の在宅療養継続支援、および在宅移行支援のための医療と福祉（介護）、本人・家族との地域連携システムの構築	共同
⑨	吉本 照子	千葉大学大学院 看護学研究科	自律的な訪問看護師をめざす新卒者のための学習支援ツールと適用モデルの開発－少子高齢社会の在宅医療福祉を支える訪問看護の質確保に向けて－	共同
⑩	西岡 正子	佛教大学 教育学部	高齢者のパソコン、タブレット、インターネットの活用と生活の充実・向上－個性を重視した学習と社会的繋がりを求めて－	個人
⑪	中川 威	大阪大学大学院 人間科学研究科	100歳以上高齢者の心理的発達に関する質的研究－老年的超越の視点から－	共同
⑫	平山 亮	東京都健康長寿医療 センター研究所	息子介護者が支援ニーズを自覚および表明可能になるための心理社会的条件の探索	個人
⑬	大浦 明美	千葉大学大学院人文社 会科学研究科	アクティブシニアの後見活動におけるネットワークと社会福祉援助技術に関する研究	個人
⑭	児玉 寛子	東京都健康長寿医療 センター研究所	高齢者介護の新たな課題－介護終了後の家族介護者への継続支援に関する研究－	個人
⑮	鶴川 重和	北海道大学大学院 医学研究科	在宅高齢者生活機能向上ツールを用いた家庭訪問研究－経時的・中長期的な認知機能改善を目的として－	共同
⑯	中西 康祐	健康科学大学 健康科学部 作業療法学科	グループホームで暮らす認知症高齢者のQOLと関連する因子の検討－手段的日常生活動作（IADL）との関連を中心に－	共同

2015年度の募集（公募）

2015年度の社会福祉事業における助成金の公募を以下の通り予定しています。

事業名 (募集時期/予算)	事業の内容 ※助成金額	対象となる団体
自動車購入費助成 (6月1日～7月15日/総額1,000万円) 詳細は財団のホームページをご覧ください	主として障害者の福祉活動を行う団体が、自動車を購入する際の資金を助成します。 ※1件100万円（上限）	・特定非営利活動法人、社会福祉法人 ・主として障害者の福祉活動を行う団体（ただし、加齢に伴う障害者(高齢者)の福祉活動団体は除く。） ・募集地域（東日本地区） 北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島・東京・神奈川・埼玉・千葉・茨城・栃木・群馬・山梨・新潟・長野・富山・石川・福井・愛知・岐阜・静岡・三重
NPO基盤強化資金助成 (10月～11月/総額1,600万円)	「組織の強化」と「事業活動の強化」に必要な資金を助成します。 ※1団体50万円上限、20団体程度 認定NPO法人取得に必要な資金を助成します。 ※1団体30万円、20団体	・社会福祉に関する活動を行う特定非営利活動法人、社会福祉法人 ・西日本地区に所在する団体 ・認定NPO法人の取得を目指す社会福祉分野の特定非営利活動法人 ・全国で募集
海外助成 (10月～11月/総額400万円)	ASEAN加盟国及びインドの社会福祉活動団体に助成します。 ※1件100万円（上限）	・社会福祉に関する活動を行う非営利団体 ・ASEAN加盟国、インドに本部を置く団体 ※推薦人が必要です。



<2014年度自動車助成先 NPO法人 Brighter Steps>



<2014年度NPO基盤強化資金助成先
NPO法人沖縄県自立生活センター・イルカ>

2014年度NPO基盤強化資金助成贈呈式を開催

損保ジャパン日本興亜の各地区本部・支店にご協力いただき、助成金の贈呈式を開始しました。

和歌山支店



<わかやまNPOセンター>

「まずセンターが認定をとり、県下のNPOの活動の促進と支援にいかしていきたい。（道本理事長）」【わかやま新報】

<和歌山支店 福田絵里さん>

贈呈式に参加して、NPOセンターの方々からお話を聞く中で資金の工面であったり活動していくことに苦勞されていることを知りました。困ったときに助けたいと思う気持ちからスタートしているNPO活動。そのNPOを助成金で支援し少しでも困っている人の役に立つ事に繋がればと感じました。



福島支店

<ほっとスペースR>
 <南相馬ファクトリー>
 <元気の素カンパニー以和貴>
 「認定NPOを取得し、経済的に自立した団体になれるよう頑張りたい。(植木理事長)」



福島支店
 [CSRニュース：荒川さん作]

静岡支店



<アンダーウオータースキルアップアカデミー>
 村田理事長は「被災地のために何が出来るかを考え、支援を続けていく。助成金は自分たちの活動をPRしてサポーターを増やすための活動に役立てたい。(村田理事長)」
 [伊豆新聞HP]

金沢支店



<えんがわ>
 「高齢者支援などを今後も頑張っていきたい。(中田理事長)」
 [北陸中日新聞]

浜松支店



<遠州精神保健福祉をすすめる市民の会>



<クリエイティブサポートレッツ>

札幌支店



<わたげ>



<札幌市福祉生活支援センター>

長野支店



<長野サマライズ・センター>

岐阜支店



<グットライフ・サポートセンター>

神戸支店



<東灘地域助け合いネットワーク>

山陰支店



<まちづくりネットワーク島根>

山口支店

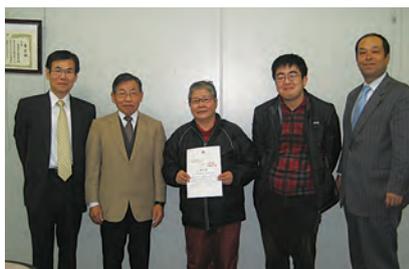


<Nest>



<山口県腎友会>

宮崎支店



<談笑会>



<ビ助っ人>



<さらだ>

愛媛支店



<ひだまり工房>



<サスケ工房>

鹿児島支店



<スマイルリボン>



<明りの家>

「特産品を使った商品化の活動に充てたい。発展させていけるよう努めます。(池理事長)」
〔南海日日新聞、奄美新聞〕

沖縄支店



<沖縄県自立生活センター・イルカ>

「障害者らが自分の気持ちを社会に発信できる力を付けられるよう取り組んでいきたい。(宮城理事長)」
〔琉球新聞〕



<作業風景>

他に滋賀支店、北九州支店、熊本支店、長崎支店でも贈呈式を開催しました。

2014年度海外助成贈呈式を開催

助成先のカンボジア、ミャンマー、フィリピン、タイ、インドの5カ国で、助成金の贈呈式が開催されました。贈呈式は各助成先団体のスタッフや利用者、JICA、障害者団体など関係者の参列を得て開催され、現地メディアを通じて広報されました。

【Farmer's Club Cambodia Association (FCAA) (カンボジア)】



●2015年2月4日にデイチャーフォンセン小学校で開催された贈呈式で、生徒全員に黄色い帽子が贈られました。引き続き「交通安全教室」が行われましたが、校長先生が、「今日学んだことを、家に帰って親たちに伝える」よう指導されていました。(この地域では、多くの親たちが学校に行けなかったため、文字の読み書きができず、交通安全の啓発が難しい状況にあります。)

FCCAは地方農家の自立支援を目標として活動している団体ですが、カンボジアの急速な自動車普及により、一家の担い手が交通事故で死亡し、生活自体が立ちいかなくなってしまう農家が増えていることを問題にし、助成対象となった交通安全の啓蒙活動をスタートさせました。FCCAのTry Y Vern代表は「小学校の生徒全員に黄色い帽子を渡すことができたことを感謝し、これからも交通事故防止に全力で取り組んでいきたい。」と話されていました。(United Insurance Company of Vietnam (UIC) 損保ジャパン日本興亜グループ ベトナム法人 渡辺さん)



【ミャンマー自立支援センター Myanmar Independent Living Initiative(MILI) (ミャンマー)】

●贈呈式には、現地のメディア(テレビ局3社、新聞社2社)が取材に来ており、障害者への支援が不足するミャンマーでの関心の高さを感じました。代表のMr.NayLinSoeが、「2011年に設立以来、障害者が潜在能力をフルに発揮し、自立して生活することができる包括的な権利に基づいた垣根のない社会を目指してきました。今回の助成のプロジェクトは、MILIの支部を通じて、全国の障害児・者へ移動補助器具を提供することにより、障害者の地域社会への参加機会を増やすことを目的としています。障害児が通学することができるようになる、障害者が通勤することができるようになる、などの効果が期待されます。」と挨拶されました。(損保ジャパン日本興亜 ヤンゴン事務所 田村さん)



【ユニカセコーポレーション UNIQUEASE Corporation (フィリピン)】



●2015年2月18日に大使館、JICA、新聞社など多くの方にもご参加いただき、贈呈式を行いました。ユニカセは、マニラの貧困家庭児の自立化支援を中心に取り組んでおり、当地においてもその活動は注目を浴び、マスコミでもたびたび取り上げられています。代表の中村氏は私財を投じて、活動を行っていますが、安定的な活動には支援が必要です。助成金はフィリピン人青年のレストランのスタッフとしての職能獲得指導に使われます。

今回の貧困削減への支援は、PGASompo、ならびにグループの活動を知っていただく良い機会にもなりました。(PGA SOMPO INSURANCE CORP. 船橋さん)



【バンコク聴覚障害者協会 Deaf Association of Bangkok (タイ)】

●2015年2月17日にバンコク市内のバンコク聴覚障害者協会事務所にて贈呈式が開催されました。

贈呈式にはアジア太平洋障害者センター (Asia-Pacific Development Center on Disability)、JICAタイなどが出席されました。贈呈式では、バンコク聴覚障害者協会活動メンバーが、助成対象となった医療従事者と難聴者のコミュニケーションにおける理解促進」プログラムについてプレゼンテーションを行い、出席者との間で活発な質疑応答・意見交換が行われました。

(損保ジャパン日本興亜タイランド 岩下さん)



【セーブザチルドレンインド Save the children India (インド)】



●ムンバイの団体本部で行われた贈呈式に、損保ジャパン日本興亜・ムンバイ駐在員事務所の鹿田さんと参加しました。本部ビルは学校を兼ねており、スラムコミュニティの子供達や、聴覚障害児が学習をしています。また人身売買の被害者が更正トレーニングとしてエステや裁縫技術の資格取得を目指して熱心に実習をしていました。この団体は日本のNPOかものはしプロジェクトのインドでのパートナーでもあります。今回の助成が、

劣悪化するインドの子どもの人身売買を防止するネットワークづくりに役立つことを期待しています。

(損保ジャパン日本興亜福祉財団 丹保)



第16回損保ジャパン記念財団賞の贈呈式を開催

社会福祉に関する優れた学術文献を表彰する「第16回損保ジャパン記念財団賞」の贈呈式を2015年3月10日に損保ジャパン日本興亜本社ビルで開催しました。

受賞者の齊藤弥生氏（大阪大学大学院人間科学研究科教授）が受賞著書の「スウェーデンにみる高齢者介護の供給と編成」についてご自身の研究の過程に触れながらご挨拶されました。

受賞者及び著書要旨を財団ホームページに公開していますので、是非ご覧ください。



<齊藤弥生氏と佐藤理事>